

三重県環境学習情報センターでは2006年から自然史教育談話会との共催でヒヌマイトトンボに関する「環境セミナー」や「観察会」を行っています。

今回の環境学習みえでは、自然史教育談話会が関わっているヒヌマイトトンボの保護について特集します。



## 絶滅危惧種 ヒヌマイトトンボの保護

### ヒヌマイトトンボの保護に 関わったきっかけ

平成10年、伊勢市の宮川浄化センター建設予定地横の水路のヨシ群落において、絶滅危惧種のヒヌマイトトンボが発見されました。

当時、三重大学の教授であった渡辺さんに、三重県はヒヌマイトトンボの保護策について指導を求めました。そこから渡辺さんが代表を務める自然史教育談話会もヒヌマイトトンボの保護に関わるようになり、現在は主にセミナーや観察会などの啓発活動を行っています。

ヒヌマイトトンボは淡水と海水の混ざりあった沿岸部の汽水のヨシ群落を生息地としています。最近では埋立や河川改修などによって、こうした生息地が減少してきています。

これまでのヒヌマイトトンボに関する調査・研究と保護啓発活動、その成果についてご紹介します。

お話を伺った人



### 自然史教育談話会

左 代表：渡辺 守さん

(筑波大学大学院生命環境科学研究科・教授)

右 事務局長：東 敬義さん

(三重県立図書館 企画総務課・主幹)

当時、三重大学の教授であった渡辺さんのもと、三重大学教育学部生物学教室の卒業生で勉強会を開いていたのが、自然史教育談話会の始まりでした。

その後、野外調査などの活動を行うようになり、ヒヌマイトトンボの保護啓発に取り組んでいます。

平成15年  
三重県環境功労賞活動賞

平成19年  
第9回日本水大賞・奨励賞

### 保全ゾーンの創成

ヒヌマイトトンボの保護を決定した三重県は、渡辺さんの指導のもと、ヒヌマイトトンボとその生息地の生態学的調査を行いました。その結果から平成15年1月、発見された生息地に隣接する水田にヨシを植栽し、新たな生息地(保全ゾーン)をつくりました。

発見された生息地の面積が5百平方メートルなのに対し、保全ゾーンは2千平方メートルと約4倍の広さがあります。

宮川浄化センターは地域の生活・自然環境に配慮して建設され、平成18年6月に供用を開始しました。敷地内にはヒヌマイトトンボの他に「カエル」、「メダカ」、「オオヨシキリ」の保全ゾーンがあります。

